

+

## 安全データシート

改定日 2023 年 4 月 14 日

## 1. 化学品及び会社情報

## 【化学品の名称】

製品名 サルボコール 86EX  
会社名 西日本薬業株式会社  
住所 愛媛県松山市南吉田町 2 1 8 6 番地 1  
担当部門 営業部  
電話番号 089-965-3600  
FAX 番号 089-965-3601  
メールアドレス [info-labo@nisiyaku.co.jp](mailto:info-labo@nisiyaku.co.jp)  
推奨用途及び  
使用上の制限 食品、製造器具等の除菌洗浄及び食品の鮮度保持  
作成年月日 2010 年 12 月 16 日

## 2. 危険有害性の要約

## GHS 分類

物理化学的危険性 引火性液体 区分 2  
健康に対する有害性 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分 2B  
生殖毒性 区分 1A  
特定標的臓器毒性(単回暴露) 区分 3(気道性刺激、麻醉性)  
特定標的臓器毒性(反復暴露) 区分 1(肝臓)、区分 2(神経)

(注)記載なき GHS 分類区分：区分に該当しない/分類できない

環境に対する有害性 区分に該当しない/分類できない

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気で、蒸気は空気とよく混合し、爆発性混合物を生成しやすい。

次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニアとは徐々に、硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウム等の酸化剤とは激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

蒸気を吸入すると眼、気道の刺激を引き起こすことがあり、繰り返しさらされた場合、粘膜への刺激、めまい、感覚鈍麻、頭痛、疲労感などを起こすことがある。

妊娠中に継続して摂取すると、胎児に有害影響が及ぶことがある。長期にわたる摂取は肝硬変を引き起こすことがある。

注意書き

使用前に以下の全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

必要に応じて個人用保護具を使用すること。

この製品を使用するときには飲食又は喫煙しないこと。  
 取扱い後は手をよく洗うこと。  
 屋外または換気の良い場所で使用すること。  
 蒸気／ミスト／スプレーを吸入しないこと。  
 容器を密栓して換気の良いところに保管すること。  
 子供の手の届かないように保管すること。

### 3. 物質の組成、成分情報

物質の特定 混合物  
 組成

含有成分	化学式	化審法番号	安衛法番号	CASNo.	重量比
エチルアルコール	CH <sub>3</sub> CH <sub>2</sub> OH	2-202	既存	64-17-5	84.0%
乳酸 ナトリウム	CH <sub>3</sub> CH(OH)COONa	2-1376	既存	867-56-1	0.2%

上記組成に精製水を含む

### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静にする。気分が悪い時は医師に連絡すること。
- 目に入った場合 : 豊富な清浄水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、洗浄を続けること。目の刺激が持続する場合は、医師の診断および手当を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 皮膚刺激があれば、医師の診断および手当を受けること。
- 飲み込んだ場合 : 速やかに口をすすぎ、医師の診断を受けること。

### 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水、粉末、炭酸ガス、耐アルコール泡が有効
- 使ってはならない消火剤 : 棒状注水
- 消火方法 : 初期の火災には、大量の水噴霧、又は粉末、炭酸ガス等の消火器による消火を行う。大規模の火災には耐アルコール泡、大量の水を噴霧する。容器を冷却する。又延焼を防止するため、周辺にも水を噴霧する。空気遮断にて消火を行うこと。  
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
- 火災時の特有危険有害性 : 刺激性又は有害なガスが発生する恐れがある。少量の水での消火は火災を拡大させる。  
 加熱により容器が爆発する恐れがある。
- 消火を行う者の保護 : 防災耐熱性保護具、マスク等消火作業に適した保護具を着用すること。

### 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、  
 保護具及び緊急時措置 : 全ての着火源を取り除く。直ちに全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。関係者以外の立ち入りを禁止する。  
 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

- 環境に対する注意事項 : 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないよう注意する。
- 回収、中和 : 不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学  
品廃棄容器に入れる。  
漏出が大量の場合散水は蒸気濃度を低下させるが、密閉された  
場所では燃焼を抑えることが出来ない恐れがある。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。  
漏出物を取扱う際に用いる全ての設備は接地する。  
蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。
- 二次災害の防止策 : 全ての発火源を速やかに取除く。(近傍での喫煙、火花や火炎の  
禁止)  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い : みだりに火気その他点火源となる恐れのあるものに接近させ若しくは注ぎ、蒸  
発させ、又は加熱しないこと。  
取扱い及び保管施設の電気設備は全て防爆構造とし、アルコール流動その他に  
よって静電気を発生させる恐れのある場所にはこれを有効に除去する装置を設  
けること。  
取り扱う設備のある場所を常に整理整頓し、その場所に可燃性のもの又は酸化  
性のものを置かない。
- 保管 : 保管は消防法上の貯蔵設備で行い、通風をよくし蒸気が滞留しないようにする。  
また、指定数量未満のものについても、火気その他危険な場所から遠ざけ通風  
をよくし温度、湿度、遮光に注意し、冷暗所に保管する。  
消防法の第1類及び第6類の危険物との混合貯蔵は禁止。また、非危険物との  
混合貯蔵については、原則禁止であるが、例外として危険物以外の可燃性固体  
類又は可燃性液体類とを貯蔵する場合は、それぞれをとりまとめて貯蔵し、か  
つ相互に1 m以上の間隔を置く場合には貯蔵することができる。

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策 : 装置の気密が重要である。照明設備は防爆型のものを使用する。  
取扱いについては、火気のない換気の良いところで行う。
- 管理温度 : 規定なし
- 許容濃度 : A C G I H(1996) TWA 1,000ppm(1,880mg/m<sup>3</sup>)
- 保護具 : 通常はゴム手袋、ゴム前掛、安全靴を着用する。高濃度の場所  
ではゴム手袋、ゴム前掛、安全靴、保護眼鏡、保護マスクを着用す  
る。
- 作業衣 : 帯電防止衣服を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

- 外観等 : 無色透明な液体で特有の芳香とやけるような味を持つ。
- pH : 該当せず 融点 : -114.15℃ 沸点 : 78.32℃(101.325kPa)
- 引火点 : 13℃ 発火点 : 439℃ 蒸気圧 : 5,878kPa(20℃)
- 爆発限界 : 下限 3.3vol%～上限 19.0vol%(空气中) 蒸気密度 : 1.59
- 密度 : 0.78493kg/m(25℃) 溶媒に対する溶解性 : 水、エーテルによく溶ける
- オクタノール/水分配係数 : -0.30(logPow)

## 10. 安定性及び反応性（アルコール分 100%として）

安定性：通常の取扱い条件においては安定であり、危険有害な分解生成物は発生しない。  
反応性：硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウム等の強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

---

## 11. 有害性情報(アルコール分 100%として)

急性毒性

- ・経口 ラット：LD<sub>50</sub> 6.2-17.8g/kg
- ・経皮 ウサギ：LD<sub>50</sub> 20g/kg
- ・吸入（蒸気）ラット：LC<sub>50</sub> 2,000ppm/10h 毒性未評価
- ・吸入（ミスト）ラット：LC<sub>50</sub> 63,000ppm/4h (118mg/L)

皮膚腐食性・刺激性：OECD TG404 試験において刺激性なし：区分外  
眼に対する重篤な刺激性：OECD TG405 試験において中等度の刺激性と評価され、1~3日目に認められた角膜混濁や光彩炎などの症状は7日以内にほぼ回復：区分2B

呼吸器感作性又は皮膚感作性：情報なし

生殖細胞変異原性：ラット及びマウスにおける優位致死の報告及びマウス生殖細胞における異数性誘発の報告があるものの。極めて高用量での治験であり再現性も認められておらず、変異原性試験においても陰性であることが報告されている。）

発がん性：IARCでは「アルコール性飲料」としてグループ1に分類しているが、これはアルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づいており、ヒトにおける嗜好的習慣的摂取のデータである。一方ACGIHはエタノールをA3に分類しているが、この評価に用いたデータは高用量で実施されており、より低用量での2年間の試験においては明確な発がん性は示されていない。

生殖毒性：一定量以上の飲酒による流産や胎児性アルコール症候群などのヒト胎児に対する悪影響が多数報告されている。ヒトに対するエタノールの生殖毒性のおそれ(区分1A)

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経系に急性中毒作用を及ぼし、大量摂取した場合には反射低下、呼吸または循環器不全などを及ぼし、場合によっては死に至る事がある。  
麻酔作用（区分3）気道刺激性（区分3）

特定標的臓器毒性（反復ばく露）：ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんど全ての器官に障害を起こすが、最も悪影響を与える標的臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化を経て肝硬変に至る。区分1（肝臓）  
アルコール中毒患者の禁断症状（振戦症状、てんかん、精神錯乱）区分2（中枢神経系）

誤えん有害性：情報なし

---

## 12. 環境影響情報

水生環境急性有害性：甲殻類(ネコゼミジンコ)の48時間LC<sub>50</sub>=5012mg/L、藻類(クロレラ)の96時間EC<sub>50</sub>=1000mg/kgなどから区分外とした。  
水生環境慢性有害性：難水溶性でなく(水溶解度=1.00×10<sup>6</sup>mg/L)、急性毒性が低いことから、区分外とした。  
オゾン層への有害性：情報なし

---

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理すること。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者などに危険性、有害性を充分告知の上処理を委託すること。

汚染容器及び包装：容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処置を行なうこと。

空容器を廃棄する場合は内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

- ・取扱い及び保管上の注意の項の記載による他、消防法により第1類及び第6類との混載を禁止。
- ・運搬に際しては、容器に漏れのないことを確かめて、転倒、落下、損傷のないよう積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
- ・その他、適用法令の定めるところに従う。

国際規制 海上規制情報 : IMOの規定に従う。

UN No. : 1170

Proper Shipping Name : ETHANOL

Class : 3

Packing Group : II

Marine Pollutant : Not Applicable

航空規制情報 : ICAO・IATAの規定に従う。

UN No. : 1170

Proper Shipping Name : Ethanol

Class : 3

Packing Group : II

国内規制 陸上規制情報 : 消防法の規定に従う。

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。

国連番号 : 1170

品名 : エタノール

クラス : 3

容器等級 : II

海洋汚染物質 : 非該当

航空規制情報 : 航空法に従う

国連番号 : 1170

品名 : エタノール

クラス : 3

容器等級 : II

特別の安全対策 : 移送時にイエローカードの保持が必要。

## 15. 適用法令

- ・消防法 法第2条第7項危険物別表第1・第4類引火性液体、アルコール類  
法第10条第1項、法第11条第1項
- ・労働安全衛生法 施行令別表第1第4号 危険物・引火性の物  
法第57条の2、施行令第18条の2別表第9 名称などを通知すべき  
危険物及び有害物（政令番号 第61号）
- ・船舶安全法 危規則第3条危険物告示別表第1 引火性液体類

・航空法	施行規則第 194 条危険物告示別表第 1 引火性液体
・PRTR 法	非該当
・海洋汚染防止法	施行令別表 1 有害液体物質 (Z 類)
・大気汚染防止法	法第 2 条第 4 項 揮発性有機化合物
・火災予防条例	各自治体の条例の基準 (消防法指定数量(400L)未満)

## 16. その他の情報

### 【参考文献】

財団法人バ イオインダ ストリー協会編：アルコールハンドブック  
社団法人日本化学会編：化学便覧  
化学工業日報社：14504 の化学商品  
海外技術資料研究所：危険物・毒物取扱マニュアル  
独立行政法人：既存化学物質安全性点検データ(2002)  
独立行政法人製品評価技術基盤機構 <http://www.nite.go.jp/>  
安全衛生情報センター <http://www.jaish.gr.jp/index.html>  
ICSC (日本語版)  
他

### 【注意】

- ・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
- ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
- ・注意事項は通常の実施を前提としたものですが、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
- ・すべての化学品には未知の有害性がある得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。